

令和7 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子西高等学校

中長期目標	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な社会を創造する人財の育成を図る。	今年度の重点目標	1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成 2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成 3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成 4 働き方改革の推進
-------	--	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状(令和6年度)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成	進路指導の充実	・大学入学共通テスト出願者数：217名(81.3%) ・国公立大学現役合格者数：72名 ・難関私立大学現役合格者数：16名 ・1日あたりの平均学習時間(10月実施)：1年次：57分 2年次：74分 3年次：162分	・国公立大学現役合格者数：60名以上 ・難関私立大学現役合格者数：20名以上 ・大学入学共通テスト出願率：80%	・1,2年次の探究活動(みらいチャレンジ)で得た学びを、キャリア形成に繋げる。 ・多様な入試制度の研究を進めるとともに、組織的な指導体制の充実を図る。			
	学習習慣の定着		・平日1日あたり学年プラス1時間の学習時間	・従来の演習活動等を充実させると同時に、生徒自らが課題を設定し、学び合う姿を目指す。 ・進路実現に向けた学習時間等の数値目標を生徒に設定させたり、学ぶ意欲を高める取組の充実を図ったりする。			

令和7 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子西高等学校

中長期目標	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な社会を創造する人財の育成を図る。			今年度の重点目標	1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成 2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成 3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成 4 働き方改革の推進		
年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現状(令和6年度)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成	みらいチャレンジ活動の充実・発展	・米子市との連携事業所訪問：延べ37部署 ・中間発表指導助言：14名 ・校内発表指導助言：18名 ・みらいチャレンジ活動アンケートにおける学習前と学習後の自己評価の肯定的変化：85.7% ・「高等学校教育DX加速化事業」及び三菱みらい育成財団「心のエンジンが駆動するプログラム」の効果的な活用 ・ホームページでのトピック更新回数：139回	・みらいチャレンジ活動アンケートにおける学習前と学習後の自己評価の肯定的変化：80%以上	・1年次での調査活動プログラムを充実させ、テーマ設定についての意識付けに繋げる。 ・校外のイベントやコンテスト等の情報提供を積極的に行う。 ・外部指導者からの指導助言を活かし、探究活動を進める推進力とする。			
	学校の魅力・特色の情報発信	・オーストラリア語学研修参加者：13名 ・マレーシア研修参加者：4名（今年度からの実施）	・ホームページを迅速かつ頻繁に更新することによる情報発信力の強化	・昨年同様、頻繁な更新に努めるが、特に部活動の活動状況や大会結果報告等の発信を各部で行う。			
	国際交流の推進	・公立鳥取環境大学「出張英語村」参加者：13名	・国際交流活動を体験する生徒の増加	・海外研修を組織的な取組とし、より内容の充実したものとする。 ・ICTやAI等を活用して、学校に居ながら国際交流活動を行うことができる取組を検討する。			

令和7 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子西高等学校

中長期目標	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な社会を創造する人財の育成を図る。			今年度の重点目標	1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成 2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成 3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成 4 働き方改革の推進		
年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現状(令和6年度)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成	基本的生活習慣の確立	・生徒学校評価アンケート「自己肯定感の高まりを感じる」：83.5% ・年間遅刻回数1回以下の生徒の割合：95.5% ・月毎の部活動指導計画に基づいた、計画的な運営を実施 ・多くの部活動が上位大会に進出し、成果を上げた。	・生徒学校評価アンケート「自己肯定感の高まりを感じる」：80%以上 ・年間遅刻回数1回以下の生徒の割合：90%以上	・いじめの早期発見に努め、職員間で情報共有し、迅速に対応する。 ・本校が定める「生徒指導に係る諸課題の未然防止及び対応指針」に基づき、生徒が自己存在感を感受できる生徒指導・支援を行う。 ・翠風祭等の学校行事や生徒会活動をより生徒主体に変えていく。			
	部活動の奨励		・生徒が上位大会出場を目指しながら、学業との両立を図りバランス良く活動	・計画的に適切な活動日及び活動時間を設定し、顧問・生徒ともにメリハリをつけた活動を行う。			
4 働き方改革の推進	時間外業務の削減	・一人あたりの月平均時間外業務時間 30時間～45時間：6名、 45時間以上：3名 ・ストレスチェックにおける昨年度から数値が改善された項目：19項目のうち2項目	・一人あたりの時間外業務時間の削減：月45時間以内、年間360時間以内を達成 ・ストレスチェックにおいて、各項目のストレス値の低下	・管理職はもとより、全職員が同僚性を発揮して、学校全体で業務の工夫・改善に対する意識改革を図る。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
〔100%〕 〔80%程度〕 〔60%程度〕 〔40%程度〕 〔30%以下〕